

長嶺にY M C Aと言う話が話題に上る様になり、準備室が設置された時から、開設まで関わる事が出来ました。当時月出小学校から新たに山之内小学校が分かれるなど、街そのものが変容していこうとしていた時代に当たり、国体道路が開通し、龍田・小池線が延長され、下水道が完備されたりとインフラも話題になっていた時でもあります。当時の仕事として、このことを裏付ける為に、国勢調査から地区ごと年齢ごとの人口変化を



作成したり、道路計画・上水道・下水道の計画が閲覧できないか市役所の閲覧室に出かけたりした事が思い出されます。30年経た今、人口動態だけでも閲覧すると面白いと思います。何しろ、センターの横に介護施設が出来ているのですから・・・

開設に当たり、最も必要とされる主題はどのような思いをセンターに吹き込むかと言う事でした。その為には、地域から、Y M C Aの事を理解していただいた上で、地域がどのような事を期待しているかを発信していただける人材を探す事でした。その為、県立大学や障害者センター等の施設へ知己を頼ってお願いした事を思い出されます。地域の中で生きていくには、その中で、地域がどのように動いているのか、どのような事が意識に上がっているのかを傾聴する事がスタートラインと言う事を教えられました。現在でも、サッカーに来る子供たちの口からそれは漏れる事があるかもしれませんから、よく聞いてほしいと思います。

準備室は農免道路と龍田・小池線の交差点を北に向かって左折し30メートル地点の建物1階2教室程度の規模のもので、そこに事務室・教室3分だと記憶しています。そこで、語学・学習事業をしながら、準備に当たる訳です。大変だったのは、センターの開設予定が年度初めと聞かされていたのですが、施主の都合と思うのですが、建物が大幅に早く建ち上がり、その為、その対応をする必要が出てきたことでした。時間等の事もあり、センターとして開館の準備の為に、見学会として、オープンする事として業務を開始しました。告知の為、学生の人形劇等、毎月の様に知恵を絞り出し、イベントを実施し、チラシを捨てられないように、裏面を塗り絵にして賞を出したりと、厳しい月日でしたが、ある意味では、自由にさせてくれましたので楽しい時代でもあったと思います。開設してからも、当時は下水道がまだセンターまで来てなかった為、処理が間に合わず、溢れ、汲み取りをした事など多くの思いがありますが字数足りません。

30年も経った訳ですので、街の様相も変わりました。その中で何が求められているか、また、何が出来るかを考え、発信していく事が必要と思います。